

🌸 女子医学生を対象としたキャリア教育1

医学生向けキャリアイノベーション セミナーの試み

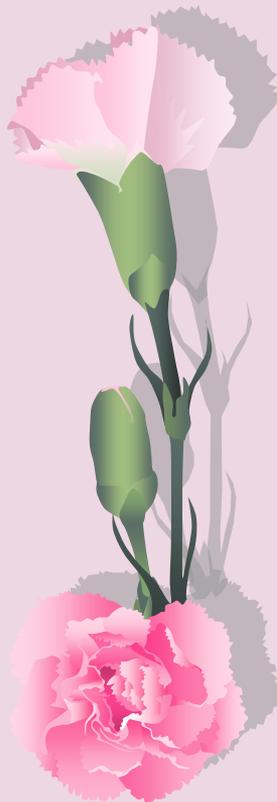
女性医師の30代が

研究・臨床・育児を両立させ、キャリアアップするためには
どうしたらいいのでしょうか？



背景

- ❁ 女性医師の30代は専門分野の習熟と結婚・妊娠・出産が重なることが多いため、働き方の変更、休職、離職を選択する人も少なくない。
- ❁ 一方、医学部の学生時代に卒後の進路やキャリア・パスを具体的にイメージし、自分に必要な情報を見つけることは難しい。また、研究の重要性に気づく機会は少ない。



キャリアイノベーションセミナーの目的

1. 30代の女性医師の具体的な事例を題材に、女性医師が抱える全般的問題を理解する。
2. 医師として研究を続けること、そして、臨床、研究、育児を両立しキャリアを継続することの重要性に気づき、自らの目標設定のきっかけとする。
3. 将来の目標達成のために、今何をすべきかを考え、現在の学習意欲を高める。



テュートリアル方式のセミナーの概要

- ❁ 本セミナーを希望した4大学の女子医学生9人と2大学の女性初期研修医2人の計13人を対象に、テュートリアル方式でグループ内討論を行った。
- ❁ 臨床、研究、育児を両立しながらキャリア・パスしていく女性医師の様子が書かれた課題シートを5枚用意し、順次配布した。学生はシートから問題点を抽出し討論を進め、必要に応じて参考資料を要求できるようにした。テュータは適時説明やアドバイスを加えた。



子供の急病

職場に迷惑

体力の低下

焦る気持ち

自分で自分を
追いつめる

臨床・専門医

研究・学位

学生達は、自分達の将来にも、きっとこのような事態はあり得ると想像し、自らの将来像と重ね合わせ答えを模索。



子供の急病

職場に迷惑

焦る気持ち

体力の低下

自分で自分を追いつめる

謙虚

真面目

几帳面

優しさ

思慮深さ

研究・学位

臨床・専門医

30代の女性医師



女子医学生を対象としたキャリア教育2

女子医学生向けシンポジウムの試み ～女性外科系医師のシンポジウム～

女性外科医師が
臨床・研究・育児を両立させ、
キャリアアップするための秘訣は？



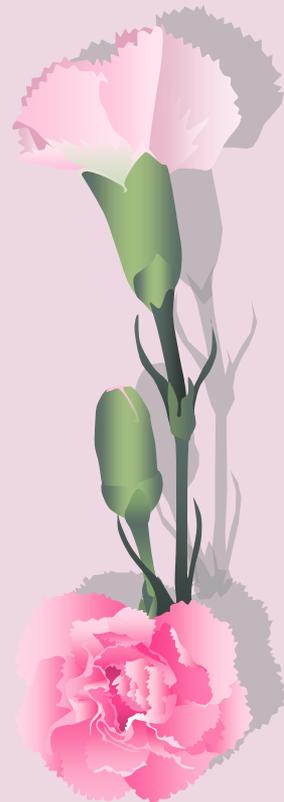
背景

- ❁ 外科医としての基本を学び、専門分野の土台を作りつつ専門医の資格を得てさらに飛躍するためには、卒後15-20年の臨床経験が必要である。
- ❁ しかし、同時期は、妊娠・出産・育児と重なることが多いため、女性外科医はライフワークバランスをとることが非常に難しくなる。
- ❁ 一方、女子医学生は、学生時代に卒後の外科医のキャリア・パスを具体的にイメージして、専門分野による違いや問題点を把握することは極めて困難である。



シンポジウムの概要

- 44人の女子医学生が参加。外科(乳腺外科)を専門とする30代後半～40代の女性外科医師3名が講師となり、個別に自らのキャリア・パスを振り返り、外科医としての研鑽について、また育児と仕事を両立することができた理由について、考え方、選択、工夫、制度の活用、支援のあり方・求め方などを具体的に示した。その後、3名の講師と参加者が討論する時間を設けた。



考察・今後の展望

- ❁ 現在、医学部卒業生における女子の割合が年々増加し、これと医師不足問題の関係は見過ごすことができなくなっている。また、女性研究者数の低迷も日本の大きな問題の1つである。これより、研究志向があり、キャリアを継続できる優秀な女性医師の育成が求められていることがわかる。
- ❁ 本セミナーとシンポジウムを通して、学生は自らの目標を考え、それに向かって今何ができるか、ということを前向きに考え始めた。
- ❁ このようなセミナーやシンポジウムは、学生の学習意欲を高め、キャリア継続意識を高める上で有効であり、これからの医学教育に十分活用できる手段と考えられた。



今後の女性医師・研究者の飛躍のために、 女子医大の支援体制は他施設にどう応用できるか？

1. 施設ごとの現状を把握した上で、基盤となる「医師全体の勤務環境の見直し」は、全国的に早急に取り組むべき課題。
2. 「院内・病児保育」「時短勤務制度」「研究支援制度」は、女子医大を参考に導入・定着へ。ただし、院内保育にはこだわらず、民間の保育施設との業務提携など、組織の経済的負担を軽くしつつ、内容を充実させるのも得策。病児保育は小児科病棟との連携によりスムーズな導入も。
3. 学生達はロールモデルとなる医師からの話を強く求めている。今後は、様々な専門の女性医師の体験談やキャリアパスについてのアドバイスの機会を、施設間で連携しながらできるだけ多く作る必要がある。

